

# I 普及活動成果

## 1 労働力軽減・確保による魅力ある薩摩川内市農業の振興

### 【成果の要約】

- ・薩摩川内市農作業サポート人材バンクの運用が始まり、市広報、研修会等でのチラシ配布、個別での情報提供などで周知を図った。求人登録者、求職者ともに増加したが、マッチング実績は少なかった。
- ・労働力確保を目的とした法人化検討会を専門家を招いて2戸で行った。
- ・畜産では、繁殖管理システム及び発情発見システムの活用操作についてフォローアップを実施した。また、地域の青年農業者を対象に牛飼い塾で研修会を開催し、畜産ICTの導入活用を推進した。
- ・水稲では、昨年度選定した水管理システムの1機種（水田farmo）を実証した。単収は434kg/10a（ヒノヒカリ）で未設置ほ場比13%増加した。
- ・果樹では、ぶどう「BKシードレス」の適正着果量は、9房/主枝1m（2.25t/10a）であった。
- ・水稲の作期分散技術は、早生品種「なつほのか」に晩生品種の「あきほなみ」を組み合わせた作付体系で展示栽培し、田植時期は5月中旬～6月中旬まで拡大し、収穫期は9月中旬～10月下旬で40日程度を確保した。

### 1 対象

市認定農業者198人、らっきょう研究会9戸、薩摩川内市ぶどう部会39戸、生産牛研究会17戸、稲作研究会13人、薩摩川内市茶業振興会28人

### 2 課題を取り上げた背景・ねらい

管内の農業者数は、3,487人(H22)から2,783人(H27)と約20%減少しており、農業就業人口の73%が65才以上と高齢化が進んでいる。また、耕地面積計については4,480haで5年前と比較して約20%減少している。

労働力の不足する経営への労力確保のために、令和2年4月に設置された薩摩川内市農作業サポート人材バンクの運用が始まり、労力確保へ向けた支援が始まった。また、労働力軽減のためにICT等を活用した省力化技術や作型体系の再検討を行い、多様な担い手の確保で、薩摩川内市における振興品目や既存品目栽培面積の維持が図られ、農家の所得向上と地域農業の振興を図る必要がある。

### 3 活動の内容及び成果

#### (1) 労働力調整システムの構築

##### ア 労働力調整システム運用状況検討

昨年度の薩摩川内市の労働力調整システムが構築され運用が始まった。求人登録農家14戸、求職者11人となったが、今年度のマッチング実績は、茶と果樹の2件であった。生産者への周知は、市広報、研修会等でのチラシ配布、個別での情報提供などで、求人登録者、求職者ともに増加したが、マッチング実績は少なかった。

イ 労働力確保を目的とした経営改善検討会  
労働力確保を目的とした法人化検討会を  
かごしま農業経営相談所の専門家を招いて2戸で行った。それぞれ労働力確保のための福利厚生面の改善への理解が深まった。



経営改善検討会

ウ らっきょうの調製労働力確保体系の検討

求人フリーペーパーを活用し確保した切り子は、事業者と個別に契約し、今年度も当事者間で継続して契約している。昨年確保した切り子の契約が今年度も継続していることで、調製労働力の確保ができた。切り子の確保と修練度が向上したことで、改良型調製機導入による調製労働力確保の課題の優先度が低下したことと、改良機製作の資金不足のため、試作機製作に至らなかった。

(2) 労働力軽減に向けた省力化技術の確立

ア ICT等を活用した省力化技術検討

(ア) 【畜産】

繁殖管理の効率化、省力化を目的に繁殖管理システム及び発情発見システムの導入が若手農家を中心に進められている。その活用操作についてフォローアップをすることで、さらなる効率化と繁殖成績向上を図った。

表のとおり分娩間隔は若干の短縮となったものの、分娩後授精迄日数前年比10.1日短縮されており今後の分娩間隔の短縮が期待される結果となっている。



繁殖管理システム活用検討会

表：分娩間隔等推移

	分娩間隔(日)	分娩後初回授精日数(日)
R3	394.6	64.8
R2	398.2	74.9
R3-R2	-3.6	-10.1

分娩間隔は6戸平均  
分娩後初回授精日数は4戸平均

また、地域の青年農業者を対象にした牛飼い塾で、昨年のニューファーマー研修に続き、畜産ICTの概要やメリット等について研修会を実施し、ICTの導入活用を推進した。



牛飼い塾

### (イ) 【水稻】

昨年度選定した水管理システムの1機種（水田farmo）を実証した。昨年度導入農業法人の水稲単収は434kg/10a（ヒノヒカリ）で未設置ほ場比13%増加した。



水管理システム設置状況

### (ウ) 【ぶどう】

ぶどう「BKシードレス」のジベレリン処理の省力化に向けて、適正着果量を調査した結果、巨峰系カラーチャート値8以上で糖度が最も高かった着果量は、500g/房では9房/主枝1m（2.25t/10a）であった。

参考ではあるが、シャインマスカットと同じ25ppm2回処理では、着色は良いが、果粒が小さく、25ppmによる省力化の可能性はないと考えられた。

BKシードレスの着果負担別果実品質

試験区	目標 収量	果房重 (g/房)	着粒数 (個/房)	1粒重 (g/房)	果皮色 色票値	糖度 (Brix)	酒石酸 (g/100ml)	10a換算 収量 (kg/10a)
8房/m区	2t/10a	519.2	40.0	12.8	6.8	16.8	0.48	2,077
9房/m区	2.25t/10a	591.8	39.5	14.8	8.1	17.9	0.48	2,663
10房/m区	2.5t/10a	511.4	39.5	12.9	6.4	17.5	0.52	2,557
<参考>								
25ppm2回処理	8房/m	379.7	41.0	9.3	9.7	17.0	0.42	1,519

### (エ) 水稻の作期分散技術の波及

早生品種「なつほのか」に晩生品種の「あきほなみ」を組み合わせた作付体系で展示ほを設置した。この組合せで、田植時期は5月中旬～6月中旬まで拡大し、収穫期は9月中旬～10月下旬で40日程度を確保した。稲作研究会員8戸が3品種以上を組み合わせた作付体系に取り組んだ。



現地検討会（7月）



稲作研究会（12月）

## 4 残された課題

### (1) 労働力調整システムの構築

生産者への周知徹底と求人，求職者とのマッチング成立事例の増加

### (2) 労働力軽減に向けた省力化技術の確立

#### ア 畜産

繁殖成績の向上については、畜産ICTの導入とその活用に伴い数値の改善が見られることからさらに推進を図る必要がある。また、労力軽減のため新たな機器の実証検討が必要である。

- イ 水稻  
水管理システム導入効果の検討
  - ウ 果樹  
BKシードレスの適正着果量におけるジベレリン1回処理の検討
- (3) 作期分散技術の検討  
作期分散データ収集，土づくりを含む施肥体系の検討

## **5 取り組んだ普及員**

- 西村，山方，西，川田原